

9. 底質の粒度組成及び底生生物調査

今年度は水路部で調査した。採集地点は図7に示した5点(st.12～st.6)である。

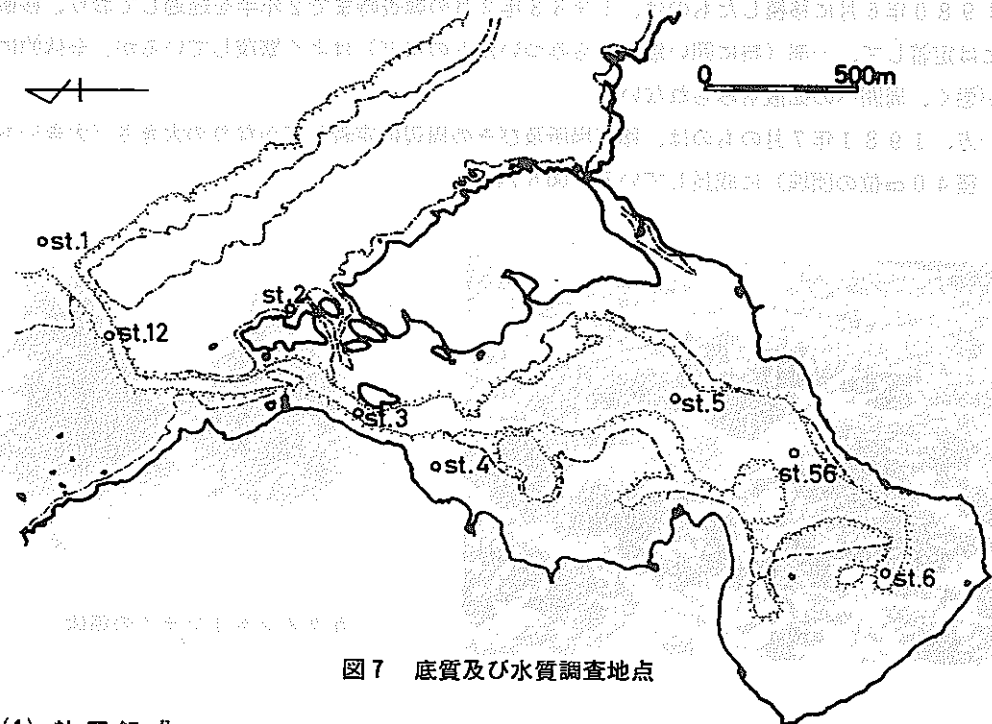


図7 底質及び水質調査地点

(1) 粒度組成

1982年8月3日に川平湾水路部の5地点で採泥を行ない、底質の粒度組成を調べた。採泥は口径7cmのガラス瓶を用いた。(沖水試、1980)。測定方法は昨年度報告(沖水試、1982)と同様である。測定に供した底質の全量は290～760gである。

結果を表5および図8に示した。湾口に近いst.12やst.3では1,000 μ 以上の極粗粒砂及び礫が多く全体の70%近くを占めた。一方湾央～湾奥のst.5、st.56では、6.3 μ 以下のシルトが70～80%を占めた。最奥部のst.6では両者の中間の値を示し、12.5～50.0 μ の細粒砂～粗粒砂が全体の70%近くを占めた。

表5 川平湾底質の粒度組成

粒径(μ)	上段 重量比(%) 下段 積算重量比(%)						
	>2000	2,000～1,000	1,000～500	500～250	250～125	125～63	<63
st.12	31.9	44.3	20.9	2.3	0.3	0.2	0.4
		76.1	96.9	99.2	99.5	99.6	100.0
st.3	37.1	31.7	21.1	9.0	0.5	0.03	0.6
		68.8	89.9	98.9	99.3	99.4	100.0
st.5	0.03	0.2	0.3	1.3	1.7	12.5	83.9
		0.2	0.6	1.9	3.6	16.1	100.0
st.56	0.03	0.1	0.8	3.0	5.4	17.4	73.4
		0.1	0.9	3.8	9.2	26.6	100.0
st.6	3.5	12.2	20.2	24.5	22.9	10.4	6.2
		15.8	36.0	60.5	83.4	93.8	100.0

表6に塩酸処理（沖水試、1980）の結果を示した。湾奥から湾口に向かって次第に残留率が低くなる傾向が顕著であった。

表6 底質塩酸処理後の残留率(試料 10 g)

	残留率 (%)
st. 12	2.8
st. 3	6.2
st. 5	38.7
st. 56	48.1
st. 6	58.4

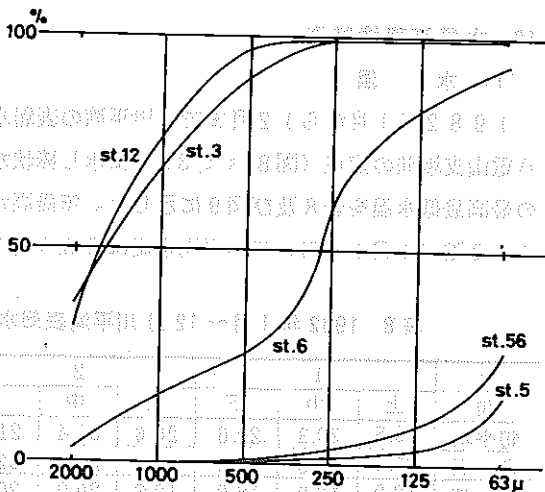


図8 川平湾底質の粒度組成

(2) 底生生物調査

1982年8月3日と1983年2月7日に、粒度組成と同地点で採泥し底生生物を調べた。採泥容器には口径7cmのガラス瓶を使用した。採集後、500μのふるいにかけてだちに中性ホルマリンで固定した。結果は表7に示した。

冬の調査で、全地点にわたってクモヒトデ類が採集されたのが注目される。

表7 川平湾浅部のペントス(個体数/㎡)

上段 1982.8.3採泥
下段 1983.2.7採泥

	st. 12	st. 3	st. 5	st. 56	st. 6
袋形動物 線虫類	140 350	140 140	-	- 70	70 -
環形動物 遊在目	980 490	840 910	280 630	210 210	2,170 350
定在目	- 210	140 490	-	-	280 -
貧毛類	280	350	-	- 480	350 140
蛭類	-	70	-	- 70	-
軟体動物 斧足類	-	70	-	- 70	210 70
後鰓類	-	-	-	-	70
節足動物 介形類	-	-	210	350	70
タナイス類	210	-	-	-	-
ヨコエビ亜目	560 70	- 70	-	-	-
クマ目	-	-	-	70	-
長尾類	-	-	-	-	-
棘皮動物 クモヒトデ類	- 70	- 420	- 280	- 910	- 140
位置不明	-	70	-	-	- 140